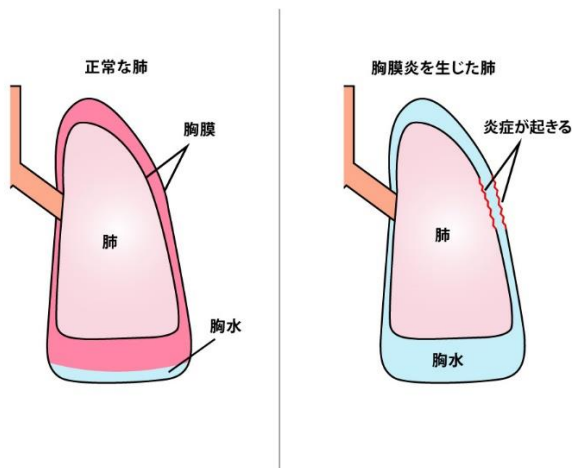


古典的ケース7 参考資料(胸膜炎はこんな病気)

胸膜とは、両肺の表面をそれぞれ覆う2枚の薄い膜で、この膜に炎症が起きる状態を胸膜炎といいます。胸膜があることによって、肺はスムーズに膨らんで萎むことができ、また、空気が漏れるのを防いでくれます。胸膜炎を生じると多くの場合、2枚の胸膜の間に胸水という液体がたまります。



胸膜炎の原因

胸膜炎はその原因によって分類されます。細菌感染の場合は細菌性胸膜炎、結核は結核性胸膜炎、がんによるものはがん性胸膜炎などと呼びます。感染症や悪性腫瘍が原因となることが多く、日本の年間罹患数はがん性胸膜炎と結核性胸膜炎で全体の60～70%を占めます。他の原因では、[膠原病](#)や薬剤によるものなどもあります。

胸膜炎の症状

主に、胸の痛みや[呼吸困難](#)、[発熱](#)、咳といった症状が現れます。胸の痛みは、ピリピリと感じることが多く、大きく息を吸ったときに悪化します。呼吸困難は、胸水が肺の周りにたまり、肺を圧迫するために起こります。